

ライフネット生命保険株式会社

「子育て世代の応援」という理念をファミリーデーで実践

残暑厳しい8月23日、すでに毎年の恒例行事となった「ライフネット・ファミリーDAY」を開催したのは、独立系のインターネット生命保険会社・ライフネット生命保険株式会社（千代田区）。開業5年目の会社とあって参加する社員の平均年齢も若く、ベビーカーを押しながらの参加も目立ちました。

同社内にあるカフェスペース「サマルカンド」に集合したのは14家族、計38名。子供たちは縦横無尽に走り回るなどフロアは朝から大賑わい。そんな賑やかな雰囲気の中、予定通り10時30分にファミリーデーはスタート。まずは司会を務めるスタッフが本日の流れを説明し、そして社長の出口治明さんを含めた役員挨拶に移ります。

「今日はお父さんやお母さんが、普段どんなところで働いているのか、どんな仲間がいるのか、よく見て帰ってください。みなさんが支えてくれているおかげで、我々スタッフは元気に働けているのです。いつも感謝しています。今日は十分楽しんで帰って」

【当日のスケジュール】

- 10:30 集合
- 11:00 役員挨拶
- 11:10 副社長から会社紹介プレゼン
- 11:30 社内ツアー
- 12:15 ランチ〜かき氷
- 14:00 解散

※家族が参加した従業員は終了後に家族と共に退社



てください」（出口社長）

役員の挨拶の後には、副社長の岩瀬大輔さんからの会社プレゼンテーションが始まります。

「ライフネット生命がどんな会社なの



▲代表取締役社長 出口治明さん

か、頑張つて説明したいと思います」スクリーンにスライドを映し、子供たちにもわかりやすく、やさしく噛み砕いた言葉を使つてのプレゼンテーション。スライドにはファミリーデーに参加している社員も多数写真出演しているので、自分の親が大画面に映し出された子供は大喜び。笑いを交えることで、子供たちも集中を切らすことなく、最後までスクリーンを見つめ続けることができました。

集合写真を撮影した後は、社内見学及び名刺交換会のために、家族が普段働くフロアに大移動。そこでは先程挨拶した出口社長が先回りして出迎えます。名刺を持って次々に訪れる可愛い訪問者たちに、出口社長も終始ニコニコ顔。連続参加の子供



▲子供たちが叶えたい夢を貼りました

たちとは、1年ぶりの再会を楽しみました。出口社長はライフネット生命保険が、このような形でワークライフバランスを重視することは当然のことだと語ります。「今20代や30代の人の所得が低い。これこそが少子化の根本原因です。我が社は、インターネットを使って保険料を安く提供することで、安心して子供を作ってもらおうという目的で設立しました。でも、そんな会社の子供を作りづらい環境だったら、誰も信賴してくれませんか？ですから我が社としては、普段からワークライフバランスの実現には力を入

れています。それと、このイベントには情報公開という意味合いもあります。お父さん、お母さん、旦那さん、奥さんがこつこつとした場所で、こつこつた仲間と働いていることをわかってもらえていれば、仕事に対する理解も深まりますし、何より安心していただけるのではないのでしょうか」

社内見学の後は、カフェスペースに戻つて夢の短冊作り。子供たちはシールに叶えたい夢を書いて、木が描かれた紙の上に貼っていきます。

「本物の木を用意して、そこに短冊のように吊つてもらおうと思ったのですが、さすがに生木は難しかったので絵にしました（笑）。子供たちが書いた夢は、バケツいっぱいいるプリンが食べたい、くらの、叶えられそうな夢だったら、後日、サブライズで叶えてあげようという企画もあるんですよ」

そう語るのはファミリーデーの企画担当者、企画部の川越あゆみさん。3年前の第1回ファミリー



▲企画部 川越あゆみさん



▲シンボルマークの描かれたパン

デーも彼女の発案から始まりました。「前職で家族を呼ぶイベントがあり、仕事をするための環境作りにとっても良い効果があると感じていたんです。ですから社長の出口に伝えたら、いいじゃない。やってみたら」ということで私が企画担当に（笑）。ファミリーデーは今年で3年目。3分の1は初参加の方たちと、毎年確実に参加者は増えています。ジワジワとですが、社内が少しずつまとまっていつていけるような、そんな実感はあります」

夢を書いたシールを貼り終わった後は、いよいよ待望のランチタイム。サンドウィッチなどと一緒に、ライフネット生命のシンボルマークが描かれた大きなパンも登場しました。

今年で3回目の参加という、お客様サービス部の片田薫さんは、ご主人と2歳のお嬢さんを連れての参加。

「働きながら子育てしていると、突然休まなければならなくなったりと、他の方に迷惑をかけてしまうこともあるんです。でもそれはお互い様でもあります。お互いに同僚の家族の顔が浮かべば、そつこつた気遣いも自然とできますし、そつこつた意味でもこつこつたイベントはとても意味のあることだと思っています」

同じく3回目の参加というシステム部の名代敏之さんは、ファミリーデーに参加したことで、家庭でのコミュニケーションが円滑になったといいます。

「家に帰って仕事の話を話すときに、〇〇さんと□□したよ、って話しますよね。でも、こつこつて家族が私の同僚と実際に顔を合わせて、話をしたりしていれば理解度が全然違います。それはとても感じますね」当日は運営チームとしてファミリーデーに携わったシステム部の平栗萌さんは、数ヶ月前に結婚したばかりとのこと。

「みなさんがご家族同士、楽しそうに触れ合っているのを見ると、私もい



▲集合写真

つかは夫を連れてきたいと思っていますね。こつこつた家族の方たちに支えられているというバックボーンを知ること、社員同士の接し方とか協力の仕方とかが変わってくると思っています。思いやる気持ちをもっと増すのではないのでしょうか」常連も、そして初めての参加者も、そのほとんどが、働きやすさへの効果を口にする同社の「ライフネット・ファミリーDAY」。「仕事と子育ての両立を応援する」という企業理念を、同社が率先して実現し社会を変える。そんな意義の伝わる素晴らしいファミリーデーとなりました。



清水化学工業株式会社

無邪気な子供たちの声がオフィス中を笑顔に

8月13日、お盆休みの月曜日にファミリーデーを実施したのは、ポリエチレン製のショッピングバッグやレジ袋、ゴミ袋などを製造する清水化学工業株式会社（足立区）。企画・担当者の経理総務部の照屋壮仁さんは、「ようやく実施できました」と笑顔で話してくれました。

「ファミリーデーのことは、2年くらい前に知りました。『東京しごとの日』ホームページで実施事例なども読ませていただいて、これはすごくいいなあ。構想から実施まで2年かかったの実施です。初めは社内でも『面倒くさい』などという声もありましたが、従業員同士が家族の顔を知る機会なんてあまりありませんし、従業員同士のコミュニケーションも円滑になるのではないかと思います。実施させていただくことにしました」

この日参加したのは照屋さんを含めた3家族。その中には現在育児休暇中の従業員の姿も。久しぶりの対面に、イベントはさながら同窓会のような、和やかな雰囲気包まれました。

【当日のスケジュール】

9:30	集合
9:40	挨拶 自己紹介 名刺交換会 常務取締役が挨拶
9:50	会社内見学 名刺交換・倉庫内見学
10:15	勉強会 ポリ製品のできるまで
10:45	子供たちによる社員取材
11:00	実技 上履き入れ& プールバッグ作成
12:00	解散

した。

イベントのスタートは、花井健司常務取締役のあいさつから。

「おはようございます。花井と申します。今日は暑い中ご苦労さま。今日はお父さんやお母さんがどんなお仕事をしているのかを勉強してお家に帰ってください」

子供たちもあらかじめ用意された名刺を花井常務に差し出し、照れくさそうにあいさつを返しました。

「森田桃菜です。よろしく願います」

そして次は社内見学を兼ねて、各部署の従業員全員とも名刺交換。先日、5年間の中国勤務から戻ってきた。

たばかりの営業部・石田貴義さんとの名刺交換の際には、簡単な中国語講座を受けることに。子供たちは興味深そうに、珍しい中国語の発音に耳を傾けていました。

「森田さんの『森』はセン、田はティエン。森田さんは中国語だとセンティエンさんです。中国語を話す人は世界中で20億人います。ですから英語と中国語を話すことができれば、世界中のほとんどの人とおしゃべりできるようになるんですよ。みなさんも、絶対に役に立ちますので、語学を頑張ってくださいね」

中国では、同僚とその家族を交えての食事や旅行は当たり前だという石田さん。家族同士が顔を合わせることでできるファミリーデーには、大賛成だと話してくれました。

「中国では仕事ももちろんですが、家族をとっても大事にする文化があります。日本に帰ってきてまだ日が浅いですが、こちらでも同僚同士が親密に付き合うきっかけになるような、こういったイベントがあるのは大歓迎です。」



▲育児休業中の森田さん▲

た森田さやかさんも、子供に職場を見せてあげることがずっと望んでいたと言います。

「一度自分の働いているところを見てあげたいと思っていましたし、娘もどんなところで働いているのか興味があつたみたいなので、こういう機会を与えてもらって、とても嬉しいです。同僚の家族の顔を知ること、相手を思いやる気持ちが自然と湧いてくるということはあると思います。子供が病気やケガのときに、仕事を代わってあげたりということも、心からしてあげられるようになるでしょうね。来年や再来年はもっと沢山の人が参加してもらって、みんなの家族にも会いたいですね」

照屋さんからの簡単なあいさつを最後に、本日のプログラムはすべて終了。自分たちで作ったビニールバッグを、大切そうにリュックにしまつ子供たちの姿が実に印象的でした。

「突然の取材タイムという、いい意味でのサプライズもあつてとても充実したイベントになったと思います。」

迎ですね。子供たちにとっても、親がどんな仕事をしているのかを理解するということも大切なことですしね」

従業員との名刺交換を済まし、倉庫の見学を終えた後は、再びオフィスへ。ここで突然子供たちが「お仕事の話を聞きたい」と、従業員への取材タイムがスタートしました。この突然のプログラム変更には、担当者の照屋さんも少し驚いたものの、子供たちの積極的な姿勢は大歓迎と、柔軟な対応でプログラムの微調整を測ります。

取材対象は営業部の田口輝さん。「どんな仕事をしてるんですか？」「大



▲突撃質問開始！

子供たち同士も初対面なのにすぐに打ち解けて、あの垣根の低さにはビックリですね（笑）。小さい子供を持つ従業員はまだまだいますので、今日のノウハウを来年、再来年と蓄積していって、後々には従業員全員が参加できるよう、もっともっと大きなイベントにしていけたらと思います」

初めてのファミリーデーに反省点も多いと言う照屋さんですが、子供たちの笑顔や協力的な従業員たちの姿に、確実な手応えも感じた様子。今回実施したファミリーデーが、ワークライフバランスの実現に積極的な同社にとって、働きやすい環境づくりのさらなる加速のための、新たな一歩となることでしょう。



▲集合写真



▲真剣に話を聞いています

変なことはなんですか？」突然の質問攻撃に、多少タジタジになりながらも、「営業といつてね、お客さんにうちで作ったものを買ってもらう仕事をしています」と、子供たちにわかりやすく説明していました。

子供たちの訪問でいっになく賑やかなオフィスの奥から、その光景を見つめる花井常務。今回の試みに対する期待感を、次のように話してくれました。

「毎朝会社に行くお父さんやお母さんを見て、仕事を頑張ってくれていることはわかっていても、実際に何をやっているのかまではわからない。ですから、こうやって家族を会社に招いて、どんな仕事をしているのかを知ってもらうのはとても良

いアイデアだと思います。それに同僚同士が家族の顔を知ること、お互い助け合おうという気持ちも強くなる。それがさらに仕事の効率アップにも繋がっていくと、企業にとっても良い事です。今後は子供だけでなく、奥さんや旦那さんなんかも呼んで、より仕事の内容を理解してもらえば、さらに従業員にとって働きやすい環境になるかもしれませんね」

そしてメインイベントは、子供たちが上履きやプール道具などを入れるためのビニールバッグの手作り体験。ポリエチレンの素材をカッターと定規を使って慎重にカットし、袋状にしてシール機で綴じ、穴を開けて紐を通す。作業の中の子供たちの表情は真剣そのもの。何度かの失敗を繰り返しながら、オリジナル手作りの出来栄に、子供たちも誇らしげです。

「ババって、結構楽しい仕事してるんだね（笑）」

照屋さんの長女・空見ちゃんの無邪気な感想に、大きな笑い声が広がりました。

現在育児休暇中で、ファミリーデー参加のために久しぶりの出社となつ

悠遊

社会福祉法人悠遊

介護現場の理解も進んだファミリーデー

8月22日にファミリーデーを実施したのは、デイサービス及びグループホーム施設を運営する社会福祉法人悠遊（西東京市）。参加したのは4人の職員とその家族9名の総勢13名。職員たちは普段通りの業務を行い、家族は介護の現場を見学・体験しながら働く姿を見るところ形式で行われました。同法人初のファミリーデーを企画したのは理事の伊藤隆志さん。普段から職員の子供たちが気軽に遊びに来る開放的な施設ですが、施設側から家族に呼びかけたのは今回が初めてのこと。

「夏休みに職員の子供たちが、暇だからという理由で遊びに来たり、中学や高校の職場体験で来てくれたりと、子供たちの顔は比較的知っているほうです。でも今回は職員の親御さんたちにも参加していただきました。親や子供の仕事がお年寄りのお世話話、ということとはなんとなくわかっていても、具体的なことまではイメージできてはいないと思うんです。ぜひご家族が働く介護の現場を見て

【当日のスケジュール】

10:00 集合
10:10 理事長挨拶
10:30 デイサービスいすみ
朝の会に参加
自己紹介
11:45 職場見学
12:00 昼食
13:00 質疑応答
13:15 解散



▲理事長の挨拶でスタート

仕事を理解するきっかけになればと思います、実施することになりました」

集合時間は午前10時。同法人の理事長 鈴木礼子さんからの挨拶でファミリーデーはスタートしました。



▲自己紹介を兼ねたゲーム大会

「職員のご家族の方に、彼らが元気に働いている姿を見ていただきたいと、ずっと思っていました。今日は短い時間ですが、働いている職員の姿はもちろんですが、施設の利用者のみなさんの元気な姿も見えていただいて、楽しんで帰っていただけたらと思います」

挨拶の後はデイサービス利用者が集まる「朝の会」に参加。ここでは自己紹介を兼ねた、簡単なゲーム大会が開かれました。

「こちらの女性は職員のお母さんです



▲利用者の方とのふれあいも

とも仲良くしながら仕事もしっかりこなしている。そんな姿を見ていると、この先、もし私に子供が出来たとしても、ずっとこの仕事を続けていくことができるんだということを実感しました。私の家族も職場を見てみたいって言っていましたし、来年はぜひ家族で参加したいと思っています。」

最後は参加家族とファミリーデーの実行スタッフ及び理事長を交えての昼食タイム。参加家族からの評判も上々ということで、鈴木理事長もホッとした表情でファミリーデーの感想を語ってくれました。

「お子さんや親御さんに何かあった場合、仕事を突然休むことになるのは仕方ありません。でもそういうときに、そのご家族の顔が浮かべば、いたわりの気持ちが自然に湧いてくるはず。そういう意味でも、職員同士がその家族を知ることができるこのようなイベントは、とても有意義だったと思います」



▲センター長小畑理恵子さん

ファミリーデーを企画した伊藤さん曰く、今回のテーマは職場の「居心地のよさ」をわかってもらいたい、ご家族の方に安心してもらうこと。その目的は十分に達成できたと話してくれました。



▲理事長鈴木礼子さん

ファミリーデー運営チームのひとり、事務局長の浅野正彦さんも、今回のイベントで感じたという、同僚や家族の顔を知ることの重要性について、こつ話してくれました。

「小さなお子さんがいるということは、もちろん情報としては知っていますが、実際に顔を知ること、この前会ったあの子が熱を出してしまったのか、と具体的にイメージできるようになりますよね。そうすることで、仕事の連携もスムーズになると思います。気持ちの問題かもしれませんが、実はそれが大事なんですね。また、私は部下を見る立場でもあるのですが、ご家族の顔を知ったことで、仕事もちゃんと教えてあげないといけないという責任感が湧いて来ました」

2回目、3回目への新たなビジョンが見えてきたという伊藤さん。来年度以降の同法人のファミリーデーは、職員の働きやすさや意欲の向上はもちろんのこと、介護業界全体を見据えた、広がりのあるイベントに成長していくことによつて。



▲集合写真

が、誰のお母さんでしょうか？わかる人！」

伊藤さんがお年寄りたちに語りかけると、利用者は職員の名前を答えたり、正解だと思つ職員を指さしたりなど積極的にクイズに参加。利用者たちの明るい雰囲気、少し緊張気味の参加家族もすぐにリラックスすることができたよつです。

参加家族9名全員の紹介が済んだ後はメインの職場体験。この日は企画担当の伊藤さんの、2人の小さなお孫さんも参加。2人は24時間体制のグループホーム施設に向かい、その場にいる利用者全員と握手でスキップ。利用者たちも満面の笑みで、子供たちの手を握り返していました。

建物2階にあるデイサービス施設でも、参加した家族と利用者たちが和やかに会話を楽しむなど、約1時間の体験プログラムは、あつという間に過ぎて行きました。

母親がファミリーデーに参加したセンター長の小畑理恵子さんも、今